

# あたらしくはいった本 (平成29年11月 貸出開始資料から)

- 小説 西郷どん! 前編・後編(林真理子/著) 三世代探偵団(赤川次郎/著) たゆたえども沈まず(原田マハ/著) ヴェネツィア便り(北村薫/著) キラキラ共和国(小川糸/著) 忘れる女、忘れられる女(酒井順子/著) 覆面作家(大沢在昌/著) 太閤私記(花村萬月/著) 死体展覧会(ハサン・ブラーシム/著) 鶏小説集(坂木司/著)
- 随筆・詩などの文学 月夜の散歩(角田光代/著) 物語と歩いてきた道(上橋菜穂子/著) こぼこぼ、珈琲(阿川佐和子/ほか著) 2択で学ぶ赤ペン俳句教室(夏井いつき/著) 江戸川乱歩と横溝正史(中川右介/著) うそつき(野坂陽子/著) いのちの旅人(新海均/著)
- その他の本 食材3つで簡単ごちそう小鍋(ワタナベマキ/著) 自分で探す病気のサイン(関西医科大学/完全監修) ラストシーン(北野武/著) 日本人の源流(斎藤成也/著) 誰も語らなかつたジブリを語ろう(押井守/著) 偏愛読書トライアングル(瀧井朝世/著) 雑草は軽やかに進化(藤島弘純/著) 死民と日常(渡辺京二/著)



## みんなの としょかん



市民図書館

TEL (921) 4646

FAX (921) 4896

<http://www.library.dazaifu.fukuoka.jp/>

## としょかんカレンダー

平成30年	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5	6
1	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			

○のついた日は休館日

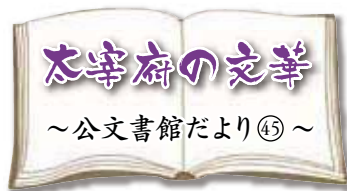
金・土曜日(祝日を除く)は午後7時まで開館しています。



明治維新150年特集

## 太宰府における廃仏毀釈と天本茂左衛門

明治政府は天皇の神権的権威の確立のため、神道国教化政策を取りました。廃仏毀釈とは、その政策のもとで、寺院からの神社の独立や神社からの仏教的要素の除去などが行われた、寺院・仏像・仏具などの激しい破壊活動のことです。ここ太宰府でも、太宰府天満宮や龍門神社において、廃仏毀釈により仏教的要素が払拭されたことが、郷土史家の伊東尾四郎によって報告されています(『新編明治維新神仏分離史料』10)。



～公文書館だより④～

だが、幕末期に太宰府に出て出家し、3年ほど太宰府天満宮社家の六度寺で札配りを行っていたところ、社家の明星坊が20年ほど無住であったことから、復旧のためここに住居を移しました。その後、明治維新となり、廃仏毀釈運動のため破壊・焼却されそうになった仏像等を守るため、尽力したというわけです。

天本は、その後、宮浦村(現基山町)に浄土真宗東本願寺派光明寺を建てるため奮闘しますが、明治16(1883)年、落慶を待たずに死去します。明光寺の本尊は、天本が太宰府天満宮から請い受けたと思われる阿弥陀如来像でした。その他、基山山麓の天本の出身地とその周辺の集落にも、天本から譲り受けたと伝えられる仏像数体が遺っているとのこと。

この報告によると、太宰府天満宮では、十一面観音立像が甘木市安長寺に、梵鐘と仁王像が観世音寺に(梵鐘は元來観世音寺のものであったが、一時太宰府天満宮に移されていた)、十二天立像が飯塚市太養院に移されています。龍門神社では、木像や仏具は焼却され、摩崖仏は梵字を削り取られ、五百羅漢は谷底に突き落とされたり、割られたりしています。下宮の祇園社には仏像を安置していたため、建物ごと燃やされてしまいました。

同報告には「太宰府神社の仏像、仏具、一切経、袈裟の類は肥前田代の天本茂左衛門が巧妙に請ひ受けて持ち去った」と記されています。天本茂左衛門は、肥前国基肄郡田代領の出身でし

太宰府市公文書館 朱雀 信城